

## 歓迎の挨拶

# 豊かな福祉社会を築く協同



本日は大変意義のある集会在私どもの東京学芸大学で開催されますことに歓迎のことは申し上げます。本来は学長の岡本がご挨拶するところですが所用で私副学長の荒尾がご挨拶を申し上げます。本日は東京武蔵野にあります本学に全国各地からおいでいただきありがとうございます。

私どもの大学は教育者養成を目的としている教育学部一つからなる国立の単科大学でございます。大学の教員数は382名、学生は学部学生が5,000名、修士が800名、博士が100名、全部で約6,000名でございます。附属学校は13ありまして、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、養護学校があり、附属の教員は約350名の規模です。少子化のこの時代、教職への就職率はたいへん厳しいものがございまして、比較的本学はがんばっているほうですが、教

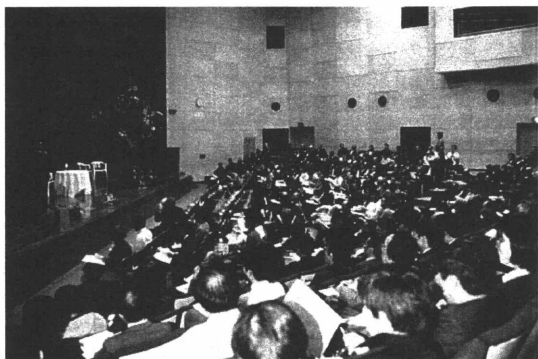
員になれるのは卒業生の3、4割程度になっております。いじめ、不登校、引きこもり、学級崩壊、学力低下など教育界には難問が山積しております。この看過できない状況に対して私どもも研究と実践を通して、また学生との教育や研究を通して、あるいは教育委員会と連携し、また、現職教員の大学院での研修にも力を入れて、可能な限りの試みをしているつもりです。また、学校教育の教育者養成だけではなく一生涯の学習、幼児から老人に至るいわゆる生涯学習を支える一環として、そのリーダーやコーディネイターの育成・学校教育を周辺から支えるサポーターの育成、いわば広義の教育者養成にも力を入れております。

しかし、我々大学だけの教育努力では効果はあがりません。いろいろな力を同じ方向に合わせる必要がありますが、その教育の必要不可欠な力の一つは地域の教育力であるかと思えます。この地域の教育力ということを我々は最近よく考えるのですが、このことと皆さんが進められている協同の思想に近さを感じるわけであります。そういう意味で私どもの大学で協同集会が開かれますことは意義深いものと思えます。

実は協同労働の協同組合については無知で

# の集いを歓迎して

荒尾 禎秀 (東京学芸大学副学長)



ありまして、また法制化がなぜ必要かも存じ上げませんでした。学長から先日朝日新聞の11月5日の社説『協同労働の思想』を渡されまして、読みましたがいま一つ分かりませんでした。しかし、その後いらしていただいた協同総合研究所の坂林専務理事にお話をうかがい、またいただいた資料を読ませていただいて、変革の時代にあって大事な考え方、思想であると知るに至りました。

ご承知のようにいま大学も改革が求められておりまして私どもも前向きに検討しております。その改革の波はあらゆるところに及んでいると思います。そのような改革の時代にあって、今日お集まりの皆様の主張は労働についての考え方の改革かと思っております。それはこの時代の中で、好ましい福祉社会の構築の思想として根付きつつあること、そし

て、さらに実践として大きな力を皆様が作りつつあると確信致します。今日明日とご不便をお掛けすることもあるかと思いますが何とぞお許しいただきたいと思ひます。

「協同労働の協同組合」法制化をめざす市民会議が設立されたそうでありますが、このことについてもお喜び申し上げます。そして、今日明日の協同集会在が有意義な集会となりますことを心から祈念致しましてご挨拶いたします。

